7月は同和問題啓発強調月間です。

差別のない明るい社会を築くため、同和問題の解決に向けて、さまざまな取り組みを行います。

同和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、日本国民の一部の人々が、長い間、生活のさまざまな場面で差別を受けてきた問題で、今もなお、現在社会に残るわが国固有の人権問題です。

日本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（第14条）と法の下の平等をうたっています。また、国や地方公共団体では、この問題の解決を図るため、教育・啓発・地域改善対策などを行ってきました。

しかしながら、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の発生が依然として後を絶ちません。近年では、高度情報化社会が急速に進展したことにより、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、差別を助長する表現や有害な情報を掲載するなど、人権問題もますます多様化、複雑化してきています。

人権が尊重される社会づくりを目指し、同和問題をはじめとするさまざまな差別を解決するためには、「無関心」「無理解」であってはなりません。差別について知り、「お互いの個性を認める」豊かな心を持ち、一人ひとりが自分自身の問題として考え、真剣に取り組んでいくことが大切です。

直方市では、一人ひとりの人権を尊重し、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っていきます。

同和問題講演会

同和問題に対する正しい認識と理解を深めるため、県と市がそれぞれ講演会を開きます。

◎直方市・直方市教育委員会主催

とき 7月25日(水) 午後2時～3時30分

ところ ユメニティのおがた

講演 「私たちみんなの人権・同和問題」

講師 角 敏秀さん（福岡県人権・同和問題研修講師団講師）

◎県主催

とき 7月21日(土) 午後1時30分～3時50分

ところ クローバープラザ 大ホール(春日市)

第1部 オープニング
手拍子の花束 ～みんなでボディパーカッション～

演奏者 久留米ボディパーカッションクラブ

第2部 講演会
「部落問題と向き合う私たち ～結婚差別を乗り越えて～」

講師 石井 眞澄 さん 石井 千晶 さん

人権問題に関するビデオ・DVDや視聴覚機材の貸し出し

市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するビデオやDVDおよび視聴覚機材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権感覚を高めましょう。

申し込み・問い合わせ 市民・人権同和対策課（TEL 25-2105）

人権標語と作文

市内の小・中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語六十七点、作文十四点の応募の中から次のとおり入選作が決まりました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小・中学校と公共の施設、合わせて25ヵ所に啓発標語看板として、7月から2ヵ月間掲示します。

平成30年度 人権標語

「おはよう」で
明るい教室 つくろうよ
直方南小6年 宮脇菜々美

キラキラと
かがやくみんなの 笑顔さく
直方北小6年 林幹太郎

信じるな
まわりのうわさ 確かめよう
直方西小6年 土田凌佑

人間は 失敗がある
それを決して笑わない
新入小6年 村上琴音

一人では
できないことは 友達と
感田小6年 阪 月那

友達の
笑顔がいっぱい この学校
上頓野小5年 津田優和

大丈夫
仲間はいつも そばにいる
下境小6年 内海希波

だれひとり
欠けてはいけない ぜったいに
福地小6年 渡辺唯夏

友達を
気づかう気持ち 大切に
中泉小6年 石田翔太

みんなでね
いつも守ろう 笑顔の輪
植木小6年 小幡千遥

笑顔の輪
みんなでいっしょに つくろうよ
直方東小6年 宮﨑里咲

その言葉
未来の自分は どう見てる
直方一中3年 西之園信之介

心の居場所
みんなでつくろう みんなの学校
直方二中2年 阿部捺希

伸ばした手
未来の希望に 満ちている
直方三中3年 柴田葵

捨てないで
個性は 自分の宝物
植木中2年 武田衣都

イジメだめ
言葉で終わるな 行動に
直方三中2年 山本竜諒

君にはね
友達いるし ぼくもいる
感田小5年 田元清雅

勇気もて
見て見ぬふりは 共犯者
直方一中1年 池上怜桜

「どうしたの」
その声かけで 救えるよ
直方一中2年 村津結乃

やさしさに
気付いたわたし 第一歩
上頓野小5年 柴田美羽

「思う」種
育てば大きな 思いやり
直方三中2年 隈井咲良

いじめるな
個性の違いは 当たりまえ
上頓野小6年 岡村悠生

命はね
みんなに一つの たからもの
直方南小5年 小山泰雅

「信じてる」
君の心の その勇気
直方二中2年 森大輝

大丈夫
あなたの居場所 ここにある
直方二中2年 瓜生朱門

人権作文

外国の人と出会って

直方南小学校 六年 井手尾 清弘

ぼくが六年生になってすぐ、遠足のおやつを買いにお母さんとスーパーに行ったときのできごとです。おやつを選び終えてレジに並ぶと、ぼくたちの前に外国の人たちが並んでいることに気づきました。その日はたくさんのお客さんがいて、やっとぼくの前の人たちが会計をすることになったとき、店員さんが突然怒鳴り始めました。おそらく、外国の人たちが日本語を理解できないことに店員さんが怒ったのでしょう。ぼくは、外国の人たちの困った様子を見て、何とかしてあげたいと思いました。同時に、どうして日本語がわからないという理由で、怒鳴られなければいけないのかと怒りを感じました。

そんなとき、

「一緒にしてあげたらいいよ。」

とお母さんが、ぼくに声をかけてくれました。ぼくはその言葉に背中を押されて、外国の人たちに近づきました。目で合図をしてから、ボディーランゲージで会計の仕方を伝えました。すると、にっこり笑いながらカタコトの日本語で

「ありがとう。」

と返してくれました。ぼくは、なんだかとても清々しい気持ちになりました。

二〇二〇年には東京オリンピックが開催されて、日本にたくさんの外国人が来ることは明らかです。そんなとき、偏見や差別のある日本は恥ずかしいと思います。どこの国の人が来ても、思いやりの心を持って平等に接することが大切だと思います。ぼくが外国に行って偏見や差別のある対応をされたら、きっととても悲しい気持ちになるからです。

ぼくは、この経験をいかし、まずは身近な学校で誰もが安心して生活ができるように、人が傷つく言葉や態度は止めて、相手を尊重して接していきたいです。そして、そんな友だちをどんどん増やしていきたいと思います。